「小児気管支喘息」長期予後調査

京都大学小児科　三　河　春　樹
北海道大学小児科　松　本　脩　三
国立相模原病院アレルギー科　三　嶋　　健
東京大学小児科　早　川　　浩
国立小児病院アレルギー科　飯　倉　洋　治
埼玉医大小児科　赤　坂　　徹
同愛記念病院小児科　馬　場　　実
九段坂病院　島　貫　金　男
神奈川県立こども医療センターアレルギー科　寺　道　由　晃
国立療養所南福岡病院小児呼吸器科　西　間　三　馨

小児気管支喘息の予後については多数の報告があるが，その長期予後ということに関しては数少ない。厚生省「小児気管支喘息児の生活指導指針」研究班では，「長期予後」ということに的をしぼり，アンケート調査を実施したので，その集計結果に検討を加え報告する。

〔方　法〕

参加施設の気管支喘息児カルテ記録より初発時年令のはっきりしているもののうち，現在年令に至るまでの経過年数ができるだけ長期のものを各施設で選び，1施設200通ずつのアンケート往復葉書を送付し，回答のあったものについて集計し，検討を行った。

〔結　果〕

(1) 1,973通のアンケート送付に対して，629通（31.9%）の回答があった。（第1表）送付対象として経過年数の長い者を選んだため，返信なし(38.6%)，住居表示変更等の為の宛先不明（29.5%）の率が高かった。以下は回答のあった629例についての検討である。

(2) 回答のあった629例のうちわけは第2表の如く，男426例，女203例（2.1：1）で，経過年数が15年を越

表 1

総発送数	1,973
返信あり	629（31.9%）
返信なし	761（38.6%）
宛先不明	583（29.5%）

表 2

気管支喘息発症からの年数	症例数 /	（男：女）
＞25年	11（1.7%）	（5：6）
＞20年	79（12.6%）	（54：25）
＞15年	286（45.5%）	（193：93）
＞10年	181（28.8%）	（129：52）
＞5年	72（11.4%）	（45：27）
総　計	629	（426：203）

表 3　気管支喘息発症からの年数と現在の状態

	≦10年	≦20年	＞20年	計
治　ゆ	38（52.7%）	262（56.1%）	60（66.7%）	360（57.2%）
軽　快	31（43.1%）	181（38.7%）	25（27.8%）	237（37.7%）
不　変	2（2.8%）	20（4.3%）	3（3.3%）	25（4.0%）
悪　化	1（1.4%）	4（0.9%）	2（2.2%）	7（1.1%）
計	72	467	90	629

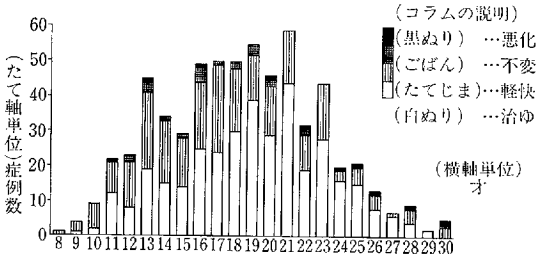

図 1　629例の現在の年令分布と状態

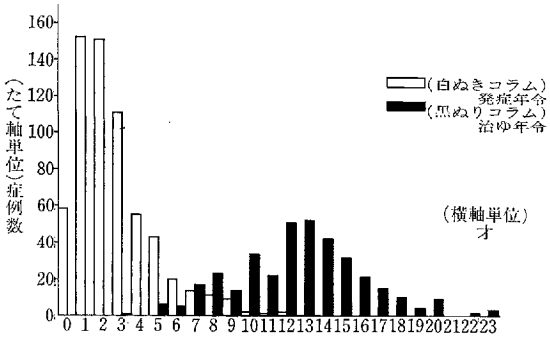

図 2　気管支喘息の発症年令と治ゆ年令

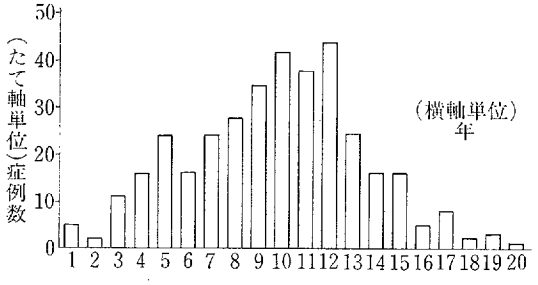

図 3　気管支喘息発症から治ゆまでの年数

える例は，376例（59.8%）であった。

（3）現在，気管支喘息の治ゆしているもの（過去1年以上発作なし）は，360例（57.2%）であった（第3表）。発症以来の経過年数により，治ゆ率はそれぞれ，経過年数10年以下は52.7%，20年以下，56.1%，20年以上66.7%となるが，有意差はなかった。又，治ゆしているもの360例のうちわけは男254例，女106例であるが，治ゆ率に男女の有意差はなかった。

（4）現在の年令分布（図1）は，8才から30才に及び，平均年令は18.4才であった。20才以上になっても，未だ治ゆしていないものは，258例中87例（33.7%）であった。

（5）気管支喘息の発症年令については（図2）0才から12才にわたり，1才と2才にそのピークがみられ，平均発症年令は2.6才，4才未満での発症は472例(75.0%)であった。現在治ゆしているもの360例についての，治ゆ年令の分布は，3才から23才に及ぶが，ピークは12才，13才にみられ，平均治ゆ年令は，12.6才であった。

（6）発症以来，治ゆに至るまでの年数（治ゆ年数）は（図3），1年から20年間に及び，10年から12年間にそのピークがみられ，平均治ゆ年数は9.7年であった。

（7）発症年令と治ゆ年数についてみると(第4表)，3才未満で発症したものの平均治ゆ年数は10.9年，3才以上で発症したものの平均治ゆ年数は5.3年であり，3才未満での発症例に，治ゆ年数10年以上の例が有意に多かった。

（8）3才未満で発症したもの(189例)のうち，当該病院への初診までの年数が4年未満のもの（92例）の平均治ゆ年数は9.2年，初診までの年数が4年以上のもの(97例)の，平均治ゆ年数は12.2年であった。この，発症から初診までの年数と，治ゆ年数をみると(第5表)，初診までに4年以上経過しているものに，治ゆ年数10年以上の例が有意に多かった。

表 4　喘息の発症年令と治ゆ年数の関係

		喘息の治ゆ年数		計
		<10年	≧10年	
喘息の発症年令	<3才	61例	128例	189例
	≧3才	100例	71例	171例
	計	161例	199例	360例

表 5　3才未満発症の喘息の初診までの年数と治ゆ年数との関係

		治ゆ年数		計
		<10年	≧10年	
初診までの年数	<4年	50例	42例	92例
	≧4年	11例	86例	97例
	計	61例	128例	189例

表 6

減感作療法をうけたもの	333 例	
そのうち治ゆしたもの	172 例	(52%)
〈同療法が効いたと思うもの	106 例	(61.6%)〉

表 7　気管支喘息に何がきいたか
（629 例の回答）

成　長	204（32.4%）
治　療	162（25.8%）
減感作療法	106
インタール吸入	26
ヒスタグロビン注射	16
鍛　錬	96（15.3%）
スポーツ	67
水　泳	22
乾布まさつ，冷水浴	19
薄　着	4
スキー	4
サキソフォン	1
転　地	24（3.8%）
施設入所	11（1.7%）
不　明	27（4.3%）

表 8　気管支喘息以外にみられる
その他のアトピー性疾患

アレルギー性鼻炎	347 例（55.2%）
アトピー性皮膚炎	134 例（21.3%）
アレルギー性結膜炎	61 例（9.7%）
蕁麻疹	44 例（7.0%）
な　し	204 例（32.4%）

表 9

		喘息は治ゆしている	治ゆしていない	計
喘息以外のアトピー性疾患	あり	234 例	191 例	425 例
	なし	126 例	78 例	204 例
	計	360 例	269 例	629 例

(9) 減感作療法をうけたものは(第6表)，回答のあった629例中333例（53%）で，そのうち治ゆしているものは172例（52%）であった。全治ゆ例360例中，減感作療法をうけずに治ゆしているもの（188例）の方が，同療法をうけて治ゆしているもの（172例）より多いが，治療適応選択の問題が含まれるものと思われる。減感作療法をうけ治ゆしたもののうち，106例（61.6%）が，同療法がきいたと答えている。

(10)第7表は，気管支喘息の経過に，何が有効であったかという質問に対する，629例全体の回答である。成長のためによくなったと答えた例が204例（32.4%）でみられた。

(11)629例中204例には喘息以外のアトピー性疾患はみられないが，他の425例（67.6%）では，何らかのアトピー性疾患がみられている(第8表)。疾患別では，アレルギー性鼻炎が347例（55.2%）でみられ，アトピー性皮膚炎134例（21.3%），アレルギー性結膜炎61例（9.7%）がこれに次いでいる。

現在，気管支喘息の治ゆしている360例中，234例(65.0%）は，何らかのアトピー性疾患をなお有しているが（第9表），統計学的に有意差はみられなかった。

〔結　語〕

小児気管支喘息の長期予後調査を，全国10施設で実施し，その結果を集計し検討を加えた。3才未満発症の気管支喘息は，その治ゆ年数が長期に及ぶが，各病院への初診までの年数が短い程，治ゆ年数も短くなることが示された。治療の種類，重症度等は加味されてはいないが，気管支喘息の専門病院で，何らかの生活指導を早くうけることが，その予後をよくするということが示唆される。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔結語〕

小児気管支喘息の長期予後調査を,全国 10 施設で実施し,その結果を集計し検討を加えた。3 才未満発症の気管支喘息は,その治ゆ年数が長期に及ぶが,各病院への初診までの年数が短い程,治ゆ年数も短くなることが示された。治療の種類,重症度等は加味されてはいないが,気管支喘息の専門病院で,何らかの生活指導を早くうけることが,その予後をよくするということが示唆される。